

令和 8年 5月 18日

受付番号

8時 30分 受領

1'

令和8年5月18日

八幡平市議会議長 関 治 人 殿

八幡平市議会議員 勝 又 安 正



一 般 質 問 通 告 書

次のとおり通告します。

質 問 事 項	質問の要旨（具体的内容）	質問の相手
1 安代の森林振興と林業振興について	<p>八幡平市の森林面積は 68,686ha で、市全体の約 8 割の面積を占める。安代方面の林業は、岩手県でも五本の指に数えられ、岩手北部森林管理署と 3 つの森林事務所が置かれている。</p> <p>安代地区の森林面積 37,066ha のうち国有林が 26,052ha であり、約 70%を国有林が占める山地である。集落はこの中に散在し、人々は山林を活用し生活してきた。豊かな山林からはキノコや山菜などの食糧、燃料となる薪・木炭・建築材が供給され、また、牛馬の飼料を供給する約 9,000ha の広大な採草林野草刈場があり、活用されてきた経緯があった。</p> <p>現在でも、森林からは豊富な水資源などが供給され、林業・木材産業が行われ、地球温暖化対策などにもつながっている。山菜も豊富で、地元の方を中心に山菜取りが行われ、最近では遠方からの集客につながっている。また、山の活用として「安比高原スキー場」を始めとしたスキー場施設が点在し、今年度 2月 18 日～21 日の期間に「第 81 回国民スポーツ大会冬季大会」が当市で行われる。</p> <p>現在も牛の飼料として採草事業が続いており、林業においても近年多くの木材運搬車が往来しており、林業従事者が増加傾向にあると聞く。このような中で今後、山・森林の経済効果は維持・推移し続けると考え以下について質問する。</p> <p>① 令和 8 年市議会第 1 回定例会での市長施政方針の中での林業振興について、森林の多面的な機能の持続的な発展を確保するため、森林環境譲与税を活用し、造林・下刈り・間伐などへの支援・森林施業の推進・森林の適正管理と持続可能な森林経営を推進していくとあるが、具体的な取り組みについて伺う。</p> <p>② 新規就農者の確保と人材育成支援の取り組みを行っている中で、林業従事者の 5 年程度にわたっての動向について伺う。</p> <p>③ 林業振興基金積立金の内容と活用について伺う。</p> <p>④ 近年では、大雨などの自然災害が多発している。山々にある多くの支流・本流に流れ込む川の現状把握と、管理・整備などが行われているのか伺う。</p> <p>⑤ 「第 81 回スキー国体」が開催されるにあたり、ジャンプ場</p>	市 長

質問事項	質問の要旨（具体的内容）	質問の相手
	<p>などの老木・危険な木々の早期撤去を行うべきと考えるが、確認作業を進めているのか伺う。</p> <p>⑥ 当市にある七時雨山は、「出光イーハートブトライアル大会」「トレイルランニング大会」といった観光やアスレチックの他、登山・山菜取りなどに多くの方が訪れる、自然環境豊かな観光資源となっている。今後も当市への来訪を増やすためにも林道整備を行っていくことが重要であると考え、このような整備を行う事業計画や取り組みはあるのか伺う。</p>	
<p>2 学校での社会学習への取り組みについて</p>	<p>少子化の進行により、年少人口・生産年齢人口の減少が続き、地域の産業などに深刻な影響を及ぼしている。この生産年齢人口確保に向けて、学校での社会学習への機会を強化し生活力・国際力を身に付け、人生設計の向上を目指す教育が必要と考える。</p> <p>ハロウィンターナショナルスクール安比校の開校により、さまざまな分野で交流会が開催されており、海外の文化や言語を学ぶきっかけになるなど、国際交流を通してさまざまな機運が高まってきていると考える。</p> <p>学習指導要領においても、学校で学ぶことと社会の接続を意識させ、一人一人の社会的・職業自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むために、キャリア教育の充実を図ると示されている。</p> <p>社会の仕組みなどを早い段階で習得させ、社会人として育てていく教育が求められてくると考え、以下について伺う。</p> <p>① 学生や生徒に、労働法制を学ぶ機会を設けてはどうか。労働に伴う災害、労働保険、年金や税金など、働く上で必要な知識を学ぶ機会は学校ではほとんどないと思う。人々が生活するためには収入が必要であり、ほとんどの場合、収入は労働の対価として得るものである。労働に関する知識を学ぶことは、主権者教育と同様に必要な知識であり、時には権利を主張しなければならないときもある。今後社会人として成長していく上で必要不可欠な学びであると考え、この労働に関する教育についてどのような考えがあるか伺う。</p> <p>② 投票率は選挙毎に増減があるが、決して高いとは言えない状況にある。2016年から選挙権年齢も18歳に引き下げとなり、同年の選挙に注目が集まったが、投票率向上の根本的な解決には至っていないと思う。若いうちから政治参加への意味を理解し、またその環境整備をすることが大切だと考えるが見解を伺う。</p>	<p>教育長</p>

令和 8年 5月 19日

受理番号

9時27分 受領

2

令和 8年 5月 19日

八幡平市議会議長 関 治 人 殿

八幡平市議会議員 渡 辺 義 光



一 般 質 問 通 告 書

次のとおり通告します。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨 (具体的内容)	質問の相手
1 郷土芸能の伝承活動と支援について	<p>八幡平市文化芸術推進基本計画には、市指定無形民俗文化財19件が掲載されている。指定第1号は昭和49年7月20日の平笠田植踊、第19号は令和7年4月1日指定の田山ぶっこみ太鼓である。旧3町村別では、西根町8件、松尾村3件、安代町8件である。他に無指定の郷土芸能団体や有志がコミセン祭や地域のイベントなどで公演し活動している。</p> <p>令和8年4月4日付、岩手日報県北版は、1951年10月1日、5千号企画として「お国自慢人気投票」「75年前の読者投票 神楽を抑え郷土芸能1位に輝く田頭田植踊 地域の宝 復活待つ」の大見出しで紙面2分の1程を使い大きく報道した。</p> <p>同団体は20年ほど休眠状態で復活が望まれているという。他の指定団体でも少子高齢化や地域活動の停滞により後継者不足で伝承活動が難しい状況であると伺っている。以下、伺う。</p> <p>① 平成26年12月定例議会一般質問で郷土芸能の保存と支援について具体的に提言した。教育長は、記録保存や後継者育成、情報発信、公開など、市指定無形民俗文化財を撮影したDVDの制作を検討しているとの答弁があった。現在までの制作本数と同教材を活用した学習等はどう行われているか。</p> <p>② 田頭田植踊は、20年ほど休眠状態であると報じられた。同様の不活動団体もあるようだが、仮称「八幡平市郷土芸能団体連絡協議会」を創設し、情報交換や連絡協調しながら活動の活性化と後継者育成などの取り組みを支援してはどうか。</p> <p>③ 郷土芸能に欠かせない横笛奏者が各団体で不足している。採譜や譜面化などに向けての調査や手法の支援を考えては。</p> <p>④ 8月8日の「8テラス」開業には、古式ゆかしく神楽や先祓いなどで施設の清め祓いや安全を祈願してはどうか。</p> <p>⑤ 平笠裸参りには近年、平笠小学校教員が参加し、子どもたちと一体となって寒中行進し祭事を盛り上げている。郷土芸能と各小学校との関わりや支援の状況はどうか。学習発表会や運動会で披露している学校の現況と評価はどうか。</p>	市 長 教 育 長
2 投票率の向上と主権者教育について	<p>4月26日に行われた八幡平市議会議員選挙は、当日の有権者数は19,584人。投票率は58・93%。前回、令和4年は無投票で選挙戦となった平成30年の67・25%を8・32ポイント下回った。</p> <p>当市は国・県の選挙でも県内下位グループを低迷している。</p> <p>①15投票区の有権者数・投票率と期日前投票者総数を伺う。</p> <p>②選挙管理委員会は、投票率をどう分析・評価しているか。</p> <p>③市および各コミセン、団体などが連携し投票行動に結びつくような主権者教育・政治学習に取り組んではどうか。</p>	選 挙 管 理 委 員 会 委 員 長 市 長

令和8年5月21日

八幡平市議会議長 関 治 人 殿

八幡平市議会議員 北 口 功



一 般 質 問 通 告 書

次のとおり通告します。

質 問 事 項	質問の要旨（具体的内容）	質問の相手
1 森林保全と森林バンクの活用について	<p>(1) 市内全域の山林で伐採が進められている。適齢期を迎えた樹木が多いことと、国内需要の高まりが背景にあると考える。再造林がスムーズに進んでいるのか気になっている。需要のある材木はすぐに買い手が見つかるが、そうではない赤松などは残っているようだ。また、山林の相続問題もあり、核家族化が進む中では植林も進まないかと危惧している。このまま放置されているうちに、気が付いたら山林が太陽光パネルだらけになっていたと考えると、恐怖を感じる。そのことから、以下について伺う。</p> <p>① 市内の山林にメガソーラーなどの新規太陽光発電施設の計画があるのか。</p> <p>② 再造林したい所有者からの補助申請数はどれくらいあるのか。</p> <p>③ 人口減少と高齢化が進む中で、個々の所有者だけで山林を守っていくことは限界がきているのではないかと。森林バンク制度を作り登録加盟してもらい、恒久的に山林を維持保全していくべきではないかと。</p> <p>(2) 田代平高原一帯では高原野菜の栽培が進み、七時雨山の中腹まで農地が開拓されている。大雨による泥水流出の問題などこれまでもあった。一方田代平には、まだまだ貴重な自然が残されている。大型風力発電の建設もこれから本格的になる中、貴重な自然環境の保全は大切なことと思う。今取り組まないと失ってからでは遅いと考えます。以下について伺う。</p> <p>① 田代平は涼川の源流部であり、そこにしかない源流岩魚の生息地である。他からの放流がなされていなければ、固有種の可能性もある。この岩魚の調査などは、これまで行われていたのか。行われていないのであれば、県と協力して保護していくべきではないかと。</p>	市 長
2 市政のDX化に伴う高齢者対策について	<p>昨年市政 20 周年を迎え、第3次八幡平市総合計画が策定され、「次世代に希望をつなぐ八幡平市」を掲げスタートした。種々の施策の中でも、DX化の問題は高齢者にはなかなか分かりにくいことと思う。これまでも高齢者向けスマホ教室の開催を提言してきたが、岐阜市がスマートフォンの基本操作を写真や図</p>	市 長

質問事項	質問の要旨（具体的内容）	質問の相手
	<p>を交えて紹介する「超入門スマホの使い方ハンドブック～シニア向け～」を、市庁舎や公共施設などで配布していると報道にあった。初心者の視点に立って編集しており日頃は楽しみながら活用し、災害時に重要な情報を得るための基本的な使い方を覚えてもらうのが狙いとあった。この事例を参考に、八幡平市版を作ってはどうか。</p>	
<p>3 防災・危機管理について</p>	<p>令和8年第1回定例会でも災害時の通信途絶時の対策について質問した。市の災害対策事業では、災害時用移動式備品整備や防災マップの更新と第3次八幡平市総合計画にあった。災害時の停電が長期化することが、避難生活に大きな影響を与える。地熱発電所を有する当市だが、現行のシステムと契約では市内に直接送電できないとなっている。大阪府泉佐野市では、小中学校の体育館にLPガス仕様のGHP（ガスヒートポンプエアコン）と非常用発電機を設置し、教育環境と避難所機能の向上を図ることができたそうだ。試算した結果電力と比較してランニングコストが安く、機器購入費と設備工事費についてLPガス振興センターの補助金活用で50%費用が軽減された。近年市民の生活はオール電化型の住環境が増えているが、災害対策を総合的にとらえ計画するべきではないか。以下について伺う。</p> <p>① 「LPガス災害バルク」（耐震性や安全性に優れた、災害対応型LPガス供給システム）を調査研究し、導入する考えはあるか。</p> <p>② 新しく統合する中学校に設置してはどうか。</p>	<p>市長 教育長</p>

令和 8 年 5 月 22 日

受付番号

9 時 38 分 受領

4

令和 8 年 5 月 22 日

八幡平市議会議長 関 治 人 殿

八幡平市議会議員 山 口 朋 文



一 般 質 問 通 告 書

次のとおり通告します。

質 問 事 項	質問の要旨（具体的内容）	質問の相手
1 投票率低下と高齢化社会に対応した投票環境整備について	<p>令和 8 年 4 月執行の八幡平市議会議員選挙は 8 年ぶりの選挙となったが、投票率は 58.93% となり、平成 26 年選挙の 70.68%、平成 30 年選挙の 67.25% から大きく低下した。</p> <p>特に市内 15 の投票区別の投票率を見ると、市街地を中心に著しい低下傾向が見られる。一方、中山間地域でも高齢化や交通事情により、投票行動そのものが困難になっている実態が見受けられる。</p> <p>令和 3 年の市長選挙から投票機会確保を目的として、バス車両による「移動期日前投票所」が実施されていることは評価できる取り組みである。</p> <p>その一方で、バス車両による移動投票所の巡回対象外地域の高齢住民からは、「わざわざコミュニティバスに乗ってまで投票所へ行くのが大変」との声も寄せられている。</p> <p>今後、高齢化や運転免許返納が進む中、市民の投票権をどのように保障していくのかは、重要な行政課題であると考えている。これらを踏まえ、以下について伺う。</p> <p>① 令和 8 年市議会議員選挙における投票率低下について、市選挙管理委員会はどう分析しているか。また、地区別投票率の差異について、どのような要因があると考えているか。</p> <p>② 今回実施された「移動期日前投票所」について、利用人数、利用地区、利用者年代、利用者からの意見、課題認識について、どのように把握・検証しているか。</p> <p>③ 高齢者や交通弱者の投票機会確保について、移動期日前投票所の巡回対象外となった地域、特に、高齢化率が高く地域公共交通が限定される地域に対し、今後どのような対応を検討しているか。また、投票支援体制や投票所配置見直しを検討する考えはあるのか。</p> <p>④ 今後の投票率向上に向けた取り組みについて、若年層への主権者教育、SNS などを活用した情報発信、市民参加型の政治啓発など、どのように進めていく考えか。</p>	選挙管理委員会委員長 市長
2 道路区画線の維持管理と交通安全対策について	<p>本市が管理する道路は、権限移譲県道 6 路線を含め全 1,012 路線に及んでいるが、市内各地でセンターラインやサイドラインの消失・劣化が進行している。</p> <p>特に雨天時や夜間においては道路区画線が視認しづらく、市</p>	市長

質問事項	質問の要旨（具体的内容）	質問の相手
	<p>民から「運転が怖い」「対向車との距離感が分からない」といった不安の声が多く寄せられている。また、本来あるべきセンターラインを超えた走行や、追い越し禁止を示す黄色のセンターラインが消えている路線も確認されており、交通事故防止の観点からも重大な問題である。</p> <p>市民の安全安心を守るため、道路区画線の維持管理体制の現状と今後の対応について伺う。</p> <p>① 市内道路におけるセンターラインやサイドラインの劣化状況を、どのように把握しているか。また、雨天時や夜間の視認性低下による交通安全上の危険性を、どのように認識しているか。</p> <p>② 維持管理体制について、道路区画線の点検・補修は、どのような基準・周期で実施しているか。また、幹線道路・交通量の多い路線を優先した整備計画など、補修優先順位をどのように決定しているか。</p> <p>③ 公安委員会との連携について、追い越し禁止を示す黄色センターラインは公安委員会の管理区分となっているが、消失した黄色センターラインについて、市として公安委員会や警察署へ改善要望を行っているか。</p>	

令和 8年 5月 22日

受付番号

16時 26分 受領

5

令和8年5月22日

八幡平市議会議長 関 治 人 殿

八幡平市議会議員 鈴木 絵 美



一 般 質 問 通 告 書

次のとおり通告します。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨 (具 体 的 内 容)	質 問 の 相 手
1 八幡平市交流複合施設「8テラス」の運営体制および市民に親しまれる施設づくりについて	<p>八幡平市交流複合施設「8テラス」事業については、さまざまな市民意見がある中で、本年8月のオープンが予定されている。</p> <p>適正な運営や費用面については、議会として継続的に確認していく必要があると考える一方で、完成を迎える今、施設をどのように生かし、市民に長く愛される場所として育てていくかが課題である。</p> <p>8テラスは、1階の交流・チャレンジショップや移住定住コーナーエリア、2階の子育てエリア、3階の市立図書館機能など、多様な機能を持つ複合施設であり、指定管理者や外部団体も関わる運営体制となっている。また、今後オープンに向け、利用される施設となるためには市民などへ施設の魅力や利用イメージの周知、期待感を高めていくための取り組みを強める必要を感じる。そこで、以下について伺う。</p> <p>① 8テラスは多機能拠点となり指定管理者が入るが、市としてどの部署がどこを所管し、また、施設全体として部署の横断的な連携や情報共有はどのようにしていくのか。</p> <p>② 令和8年4月18日に開催された8テラス開館イベント「ネットの情報で困らないために」について、開催目的、対象者、周知方法、参加状況および今後の関連事業の展開について伺う。</p> <p>③ 8テラスは各階ごとに特徴を有する複合施設であるが、市内外に向けた施設全体としての情報発信および利用促進について、どのような方針・計画で進めていくのか。</p> <p>④ 8テラスについては、建物内部のみならず、施設へのアクセスを含めた安全性や利用しやすさへの配慮も重要と考える。駐車場から建物までの動線や、周辺道路環境なども踏まえ、多様な利用者を想定したユニバーサルデザインおよび安全対策について、市の考えを伺う。</p>	市 長
2 柏台保育所の閉所方針と地域子育て環境の維持について	<p>保育所運営については、少子化、老朽化による施設維持、保育士人材確保など、多くの自治体、そして当市においても厳しい状況がある。</p> <p>本市では人口減少と少子化が進む中、第3期子ども・子育て</p>	市 長

質問事項	質問の要旨（具体的内容）	質問の相手
	<p>支援事業計画では「子ども・家庭・地域に笑顔あふれる八幡平市」を基本理念として、子育て支援施策を進めている。</p> <p>共働き世帯の増加や就労形態の多様化により、低年齢児保育需要は一定数存在しており、過疎地域における保育機能は、子育て世帯の定住、地域産業の人材確保、地域コミュニティ維持にも関わる生活インフラとしての役割を担っている。</p> <p>そのような中、令和8年3月27日に柏台保育所において、令和8年度末をもって閉所し、令和9年度から他園への転園を依頼する旨の説明会が開催されたとのことである。柏台地域は、宿泊業、観光業、医療・介護分野など現場就労型産業が多く、近隣保育機能の有無は、子育て世帯の居住継続や地域産業の人材確保にも大きく関わる。また、令和3年の松尾保育所開所時には、柏台地域からの距離や地域意向を踏まえ、柏台保育所を単独で残した経緯がある。さらに、柏台小学校跡地については、今後の利活用次第では若い世代の移住定住や関係人口創出につながる可能性もあり、柏台エリア全体の将来像をどのように描くかは重要な視点である。そこで、柏台保育所閉所方針と地域子育て環境の維持について伺う。</p> <p>① 柏台保育所閉所方針の検討経緯について伺う。</p> <p>② 実施した説明会において、保護者、地域住民、近隣企業からどのような懸念事項が示され、市としてそれらをどのように把握し、対応していく考えか。</p> <p>③ 人口減少対策、地域維持、産業振興、移住定住、子育て支援などの施策について、柏台エリアの将来像をどのように描き、どのような協議・調整が行われているのか。</p> <p>④ 「令和9年度閉所」という方針について、保護者や地域住民との対話や地域ニーズの把握を丁寧に行うため、一定の期間を設けた上で地域保育機能の在り方を改めて検討する考えはないか。</p> <p>⑤ 本市が掲げる「切れ目のない子育て支援」および「子育てしやすい環境」とはどのようなものか。また、各地域における保育機能をどのように位置付けているのか見解を伺う。</p>	

令和 8 年 5 月 25 日

受付番号

8 時 30 分 受領

6

令和 8 年 5 月 25 日

八幡平市議会議長 関 治 人 殿

八幡平市議会議員 高 橋 悦 郎



一 般 質 問 通 告 書

次のとおり通告します。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨 (具 体 的 内 容)	質 問 の 相 手
1 第 3 次 八 幡 平 市 総 合 計 画 前 期 基 本 計 画 に つ い て	<p>岩手県人口移動報告年報によると、本市の令和 6 年の人口増減の内容は、自然減は 443 人の減少。同じく社会減は 134 人、合わせて 577 人の人口減となっている。第 3 次八幡平市総合計画前期基本計画では、移住定住対策の強化について、「現状と課題」を次のように述べている。人口減少は、自然減・社会減の両面で進行しており、特に若年女性の転出などによる出生数の減少が深刻な課題だとしている。以下について伺う。</p> <p>① 総合計画では、この人口減少対策として、移住定住センターの設置、盛岡広域圏への通勤の利便性の PR、若者向けの住宅団地の整備などが示されている。人口減少対策で期待されるのが、若者向けの住宅団地の整備と思われる。この事業の具体的な内容を伺う。</p> <p>② 総合計画では、新たな工業団地造成による企業誘致の促進が必要であるとして、GX 産業団地の整備を進めるとある。整備費 35 億 5 千万円が計画額になっているが、その具体的な事業内容を伺う。</p> <p>③ 「文化・芸術に取り組む環境づくり」では、文化施設整備事業が新規事業として示されているが、内容を伺う。</p> <p>④ 西根・松尾地区統合中学校建設費は、最新の建設費が反映されているのか伺う。</p> <p>⑤ 過去の総合計画額と第 3 次八幡平市総合計画前期基本計画を比較すると、計画額が最も多くなっている。資料編での「財政の見通し」では、過疎債・辺地債は可能な限り活用する。財源確保に業務の効率化や既存事業の見直しを進めながら、予算編成を行っていくとある。人口減少が進む中で、次々と大規模事業が計画されているが、市民福祉への影響はないのか伺う。</p>	市 長 教 育 長

令和 8 年 5 月 25 日

受付番号

9 時 28 分 受領

7

令和 8 年 5 月 25 日

八幡平市議会議員 関 治 人 殿

八幡平市議会議員 工 藤 多 弘



一 般 質 問 通 告 書

次のとおり通告します。

質 問 事 項	質問の要旨 (具体的内容)	質問の相手
1 観光振興について	<p>八幡平市の主な産業は合併以来、観光と農業と言われている。市では将来像を「次世代に希望をつなぐ八幡平市」とした第3次総合計画を策定し、前期基本計画において、5つの基本目標と20の施策を掲げた。基本目標の2番目「豊かな地域資源を生かしたまちづくり」で産業を主題としている。以下について伺う。</p> <p>① 5月12日市議会議員全員協議会において、岩手山焼走り国際交流村の今後の対応について概要説明があった。その中で、新たな調査を計画しているという。補正予算は、基本的に緊急の場合編成するとの考えであった。指定管理は令和7年10月に取り消しているため、この調査業務は当然当初予算で予算化していると思うが、予算内容について経緯を含め見解を伺う。</p> <p>② 「サウンディング調査」および「トライアルサウンディング調査」の調査方法は、すでに長野市、山形市などで実施されPPPやPFIなどでも活用されていると聞く。これに対して、国土交通省が「地方公共団体のサウンディング型市場調査の手引き」を提示している。しかしこの調査方法については、さまざまな意見があるようである。今までの調査委託業務に、仕様書で業務内容を明示すれば業務が可能とも見受けられる。調査方法に、新しく名前を付けただけのようにも見受けられる。今までの委託業務と何が違うのか。この調査方法自体の事前評価を市では数値化し、リスク分析をどう判断しているのか伺う。また、この調査方法は問題点も指摘されている。市では当然把握していると思うが、参画事業者および利用者が限定されることやニーズ把握の偏重、調査結果と実態の乖離などがある。市は、調査結果が実態と合わない場合は責任を取らなければいけないと思うが、それについての考えおよび事前対応策を伺う。</p> <p>③ 八幡平DMCは設立主旨からいってサウンディング調査およびトライアルサウンディング調査を請け負うことが可能と推測されるが、市では検討しているのか。また、国際交流村の指定管理者には市観光協会や市産業振興株式会社なども可能と思われるが、検討内容などについて見解を伺う。</p>	市 長

質問事項	質問の要旨（具体的内容）	質問の相手
2 農業振興について	<p>(1) イランとアメリカの戦争により日本全体、世界全体が非常に厳しい状態になっており先行きが不透明である。その中で農業関連の肥料、飼料、ビニール関係の資材など価格高騰や発注しても納品が厳しいとの声も多い。以下について伺う。</p> <p>① 市では、国や県の政策を待つのではなく独自の施策を速やかに実施するべきと思うが見解を伺う。</p> <p>(2) 今回の市議会議員選挙で農家の皆さまの声を聞いた。特に高齢の中小農家の方々から農業やめたとか、後継者がいないなど、このままでは八幡平市の農業は持続が不可能な状況になってきていると痛感した。市ではさまざまな農業政策を実施しているが、困難な問題だけに効果がなかなか出ていないように見受けられる。以下について伺う。</p> <p>① 八幡平市における経営体ごと（米、畜産、花き、その他）の農家数および生産高などの5年前、現在、5年後の見込みをそれぞれ伺う。それを踏まえて持続可能な八幡平市の農業を担う人材の育成も含め、どう政策を進めるのか中小農家支援策を中心に対応策を伺う。</p> <p>(3) 令和7年度八幡平農業再生協議会水田収益力強化ビジョンでは、主食用米に替わる水田活用作物として飼料用米を推進するとある。しかし現実には令和8年4月に発表された令和7年産米の相対取引価格・数量（速報）によれば、玄米概算税込み60kgで、岩手県産ひとめぼれが35,387円、同銀河のしずくが35,228円となっている。このことから推測されるように食用米の作付けが多くなり、飼料用米が激減したと聞く。以下について伺う。</p> <p>① 令和7年度中に飼料用米の作付けが少なければ飼料用米利用者への影響も危惧されるが、その経営者の方の意見は現在どのように変化し市ではどのような対応を取ったのか。</p> <p>② 令和7年および8年の食用米、飼料用米の作付け面積、生産量などはどのような状況か。また、市は今後どのようにバランスを取った農業政策を推進するのか対応を伺う。</p> <p>(4) 中小の畜産農家もここ数年でかなり減少したと聞いた。市ではその対応策の一環として繁殖育成センターを整備したと思うが、以下について伺う。</p> <p>① 施設の整備前後において、畜産農家の減少にどの程度効果があったのか数値（飼養頭数、農家数、生産高など）について伺う。</p>	市長

令和 8 年 5 月 25 日

受付番号

10 時 51 分 受領

8

令和 8 年 5 月 25 日

八幡平市議会議長 関 治 人 殿

八幡平市議会議員 田 村 正 元



一 般 質 問 通 告 書

次のとおり通告します。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨 (具 体 的 内 容)	質 問 の 相 手
1 子育て支援と学校教育について	<p>現在、日本全体で少子高齢化が政府の予測よりはるかに速いスピードで進む中、当市においても出生者数は、1995年の274人から、2000年に211人、2010年に167人、2020年に82人、2023年に56人、一昨年は57人、昨年は68人と減少傾向から変化がみられる。そのような中、八幡平市として長期的視点で義務教育方針の方向性を定める必要があると、小学生の子ども2人を育てる「子育て現役世代」として強く感じる。第3次八幡平市総合計画における方針も踏まえて、以下について伺う。</p> <p>① 中学校の統廃合について、5月から6月にかけて3中学校で実施された保護者および住民説明会の内容も踏まえて、今後どのように進めていくのか伺う。</p> <p>② 小学校の統廃合について、来年度から統合される松尾地区の小学校以外について、今後どのように統合していく計画なのか伺う。</p> <p>③ 岩手県立平舘高等学校について、廃校統合、継続も含めて長期的に市としてどのような学校教育の位置づけとして、計画しているのか伺う。</p>	市 長 教 育 長
2 社会基盤の維持、整備について	<p>八幡平市として、第3次八幡平市総合計画と第2期八幡平市国土強靱化地域計画、八幡平市公共施設再編計画も踏まえて、今後の社会基盤についてどのような方向性を考えているのか、以下について伺う。</p> <p>① 現在、市が宅地造成開発している住宅地はあるか。計画している案件も含めて、現状を伺う。</p> <p>② 防災無線について、場所によっては聞きづらい、聞こえにくいといった場合もあるが、今後高齢化が進む中、対策は考えているのか伺う。</p> <p>③ 高齢者の交流や健康増進に寄与しているパークゴルフとグラウンドゴルフについて、パークゴルフ場、グラウンドゴルフ場の市管理状況はどのようになっているのか、場所や金額も含めて伺う。</p>	市 長
3 観光振興対策と今後の振興計画について	<p>政府の観光立国の実現に関する2030年インバウンド目標として、旅行者数6,000万人、消費額15兆円の達成に向けてさまざまな事業が行われている中、第3次八幡平市総合計画も踏まえた上で、今後の観光振興計画についてどのような方向性を考えているのか、以下について伺う。</p> <p>① 現在、市内で大型遊休施設となっている、焼走り国際交流村について、5月の議員全員協議会で発表された内</p>	市 長

質問事項	質問の要旨（具体的内容）	質問の相手
	<p>容を踏まえ、現状の進行状況を伺う。</p> <p>② 八幡平市として、2030年目標、観光入込数 240 万人、宿泊者数 60 万人を達成するための施策として、どのような事業を計画しているか伺う。</p>	